

50217

教科書文庫

5
290
34-1946
01304 49644

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

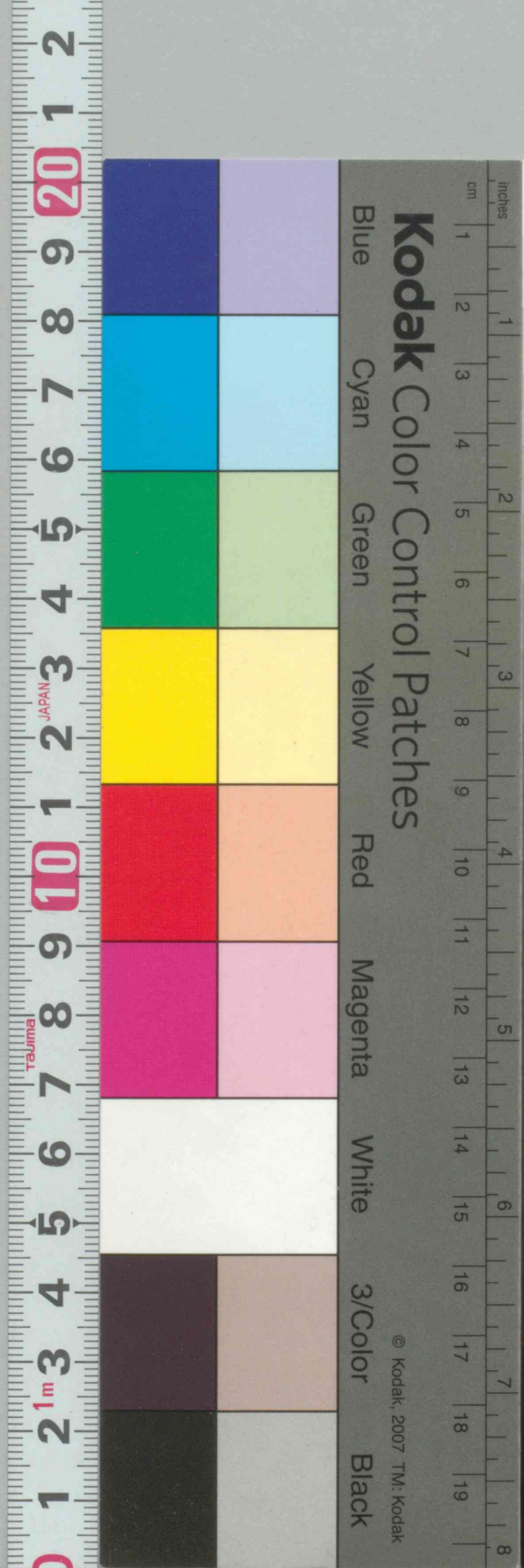


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



初等科地理 上

第五學年用

文部省



中央図書館

目次

一	日本.....	一
二	本州・四國・九州.....	一
三	帝都のある關東平野.....	五
四	東京から神戸まで.....	一一
五	神戸から下關まで.....	一一
六	九州とその島々.....	一一
七	北陸と山陰.....	一一
八	中央の高地.....	一一
九	東京から青森まで.....	一一
十	北海道.....	一一

広島大学図書

0130449644



一日本

わが國は、アジャ大陸の東側にある太平洋上の島國で、大小の島々から成り立つてゐます。大きな島には、本州・四國・九州及び北海道があり、そのほか小さな島がたくさんあります。

これらの島々は、大體、北東から南西の方向に連なつてゐて、その東には、世界でいちばん大きな海の太平洋が、廣々としてうち續き、また一方、大陸との間には、オホーツク海・日本海・東支那海があります。さうして太平洋をはじめ、これらの海は、互に海峡によつて、相通じてゐます。

わが國土が、大きな海洋と大陸との接するあたりに位してゐる島國であることは、氣候・産業・交通その他、いろいろの點に深い關係があります。

わが國の東には遠く太平洋を越えて、アメリカ大陸

があり、北から西にかけては、シベリヤ・朝鮮・支那。また南には、フィリピン・ボルネオ・ニューギニヤなど、南方の島々をへだてて、オーストラリヤがあります。

わが國の總面積は、およそ三十八萬平方キロで、本州が、その六割を占めてゐます。總人口は八千萬に近く、世界でも國土の面積のわりに、人口の特に多い國の一つとなつてゐます。

行政上、本州・四國・九州及びこれらに屬する島々を、一都・二府四十三縣に分け、これを治めるために、都には都廳、府には府廳、縣には縣廳が置かれてゐます。別に北海道には北海道廳があります。

二 本州・四國・九州

わが國の島々のうちでいちばん大きな本州は、その位置もちやうど真中どころにあつてゐます。四國と

九州とは、本州の西にくつついたやうな島ですから、この三つの島を一かたまりとして見る事ができます。

わが國の島々には、せばねのやうな山脈が真中を通つてゐます。本州でも、やはりその島の形なりに、中央から北では南北へ、西では東西へ、山脈が通つてゐますが、その西の端は、北九州の山脈に續いてゐます。それにもう一すぢ、本州の中央から分れて紀伊半島を通り、四國を経て、九州のなかほどをななめに横ぎつてゐる山脈があります。本州の中央は、これらの山脈が集つて、土地がいちばん高くなつてゐるばかりでなく、また島の幅もいちばん廣くなつてゐます。

このせばねのやうな山脈には、これに沿つた火山帯があります。また別に、本州の中央から伊豆七島・小笠原群島に續く火山帯もあつて、火山がいたるところにそびえてゐます。

本州の太平洋側では、利根川の流れを中心とする關東平野や、木曾川の下流にある濃尾平野や、淀川の下流にある大阪平野、また日本海側では、信濃川の下流にある越後平野が、平野の主なものです。九州の筑後川に沿つた筑紫平野も、かなり廣い平野です。

海岸に漕うた、幅のせまい平野も各地に見られますが、土地が山がちですから、山が海にせまつて、小船を寄せる平地のない海岸もたくさんあります。海にのぞんで切り立つた岩山のすそに小島のちらばつてゐると、松林の續く砂濱に波の打ちよせるのは、日本の海岸風景の特色といつてよいでせう。

海岸線の出入と島の多いところは、九州と瀬戸内海の沿岸で、島や灣のいちばん多いところでは、

紀伊・伊豆・房總などの半島は、太平洋側の主な半島で、能登半島は、あまり大きな出入のない日本海の沿岸で、特に目に立つ半島です。

上がとがつて、ふもとになだらかなすそ野を引く火山のすがたは、日本各地の景色を美しく引き立ててゐます。富士は、その代表的な山であります。また、淺間山や阿蘇山のやうに、絶えず煙を吐いてゐる火山も少くありません。わが國は、世界でも有名な火山國で、火山にともなつて温泉もたくさんありますし、また地震も多い國であります。

本州の主な川々は、せばねの山脈を境にして、太平洋に注ぐものと、日本海に注ぐものとがあります。山が多いので、どの川も大體流れが早く、川の上流や中流といへば、青々と木の茂つた谷合ひを、きれいな水が勢よく流れてゐるのがふつうです。その谷合ひに、せまい平地や、やや廣い盆地があります。

川の下流になると、兩側に廣い平野があります。廣いといつても、大陸にあるやうな大きなものではありません。

本州・四國・九州のうち、本州の北東部には、冬かなり寒いところもありますが、その他の地方は寒さも知れたものです。殊に、本州中央の太平洋沿岸から四國・九州にかけては、真冬にも暖い日光をあびながら、らくに野外で働くことができます。

ただ、本州の日本海沿岸の冬は、海の方から吹きつける北西季節風のために、盛んに雪が降り、野も山も深い雪におほはれて、交通にもたいへんなんぎをするところがあります。この點、太平洋沿岸とは、いちじるしいちがひですが、これは主に、太平洋側と日本海側とを分けるせばねの山脈が、北西風の運ぶ濕氣をさへざる役目をしてゐるからです。

夏の盛りには、さうたう暑い日が續きます。盆地や、平野の真中あたりなどは特にさうですが、しかし海にかこまれた島國ですから、涼しい海風が、よほど暑さをやばらげてくれます。本州・四國・九州の南海

岸が、夏特に雨が多のは、南東季節風が太平洋から濕氣を吹き送るためです。夏、雨の多い本州の太平洋側と、冬、雪の多い日本海側とは、かうした氣候のちがひにつれて、いろいろなちがひが見られます。

山にかこまれた瀬戸内海の沿岸は、北の中國山脈、南の四國山脈によつて、日本海や太平洋の方から来る濕氣がさへぎられるので、雨が少く晴天の日が續きます。

わが國の島々は、海岸の平野をのぞけば内部は大體が山がちですから、主な交通路は、昔から海岸に沿うてゐるところが多く、本州・四國・九州では、そのやうすが特によくわかります。

東京が江戸と呼ばれたころ、東海道五十三次といつて有名であつた江戸と京都の間の街道も、できるだけ山地をよけて海岸の平野を違つてゐます。今も、あちこち残つてゐるそのころの松並木を見ると、昔の旅の

さまがしのばれます。

東京から神戸へ行く今の東海道本線のうち、東京から名古屋までは、大體この街道に沿うてゐるのです。さうしてわが國の特に大きな都市が、すべてこの鐵道に沿うてゐるのを見ても、この線が、交通上大切であることがよくわかるでせう。

瀬戸内海の沿岸を通つてゐた山陽道も、同じやうに海岸づたひで、これも今の山陽本線とよく一致してゐます。また、日本海沿岸の北陸・山陰の街道も、やはり海岸に沿うたもので、北陸本線と山陰本線の鐵道は、それぞれこの道すぢを通つてゐるのです。

東京・青森間の鐵道では、東北本線は阿武隈川や北上川の谷を通り、奥羽本線はいくつかの盆地を通るので、大部分海岸をひではありませんが、これらも昔からの街道とよく一致してゐますし、常磐線は、關東平野から北の方は太平洋岸を通つてゐて、これも古い街

道すぢにあたつてゐます。

内郷の山地を横ぎつて、太平洋側と日本海側とをつなぐ鐵道は、開通もおそく、しかも主な鐵道線は少ないのです。四國でも主な鐵道は、瀬戸内海の沿岸にありますし、また九州を一周してゐる主な鐵道も、大部分、海岸に沿うてゐます。

三 帝都のある關東平野

關東平野は、わが國でいちばん大きな平野です。平野の少いわが國では、それがめづらしく大きいことと、その位置が本州のほぼ中央にあたつてゐること、さうしてそこに帝都東京があることが、この平野について最も大切な點です。東京と關東平野とは、どうしても切りはなして考へることができません。東京を中心として、鐵道や電車が平野の四方へのび、またそれらの線をしるくする線があつて、ちやうど、くもの巢を

張りめぐらしたやうになつてゐます。これを見ても東京とこの平野とが、どんなに深い關係があるかがわかるでせう。これほど交通が発達してゐるのは、東京や横濱のやうな大都市があるからであります。また、平野といふものが、道路や鐵道を敷くのに便利であるからであります。

東京は、わが國でいちばん人口の多い都市ですから、いろいろな品物が、全國から集ります。とりわけ東京の近くでできるものは、送るのに便利ですから、この平野にいろいろな産業が発達することになります。都會向きの野菜の栽培が、東京の近くで盛んに行なはれるのは、その一つの例であります。

帝都のまはりに、かうした廣い平野をひかへてゐることは、まことに意味のあることです。

關東平野とまはりの山地 東京の西の郊外へ出て、武藏野の小高いところに登ると、見渡すかぎり廣々と

した關東平野が、目の前に開けます。平野といつても、このへんは、どこまでも水田が續くといつたふう
に、ごく平らではありません。表面のゆるやかに起伏
する臺地が、いたるところにあつて、その間を流れる
川のへりに水田があります。よく晴れた日なら、遠く
西から北に、この平野をかざる山々を望むことができ
ます。西には、わりあひに近く、箱根からすつと北に
續く山々が見え、その間にすつきりと、上半身をあら
はした富士のすがたが美しく見られます。北には、は
るかに榛名や赤城や、日光の山々も見えます。

北東の筑波は、平野の中にぼつんとそびえてゐるの
で、遠いながらも目につく山です。また南には、右手
に伊豆、左手に房總の山々を望み見ることができま
す。

富士と筑波は、關東平野にはつきものの山で、江戸
の名所の繪にも、この二つの山がきつとかきそへてあ

が行なはれ、わが國でも主な葉たばこの産地となつて
ゐます。

平野が廣いだけに、米もたくさん取れます。しか
し、東京・横濱のやうな大都市をはじめ、平野の各地
に都市があつて、わが國でもいちばん人口の密なところ
ですから、この地方の米だけでは足りません。随つ
て東京には、他の地方からたくさん米が集ります。

關東平野の北から西へ續いてそびえてゐる高い山々
は、冬、日本海方面から來る濕氣をさへぎる役目をして
ゐます。それで山地の北側は、冬中雪が深く積つて
ゐるのに、せなか合はせの關東平野は、雪もまれで暖
かです。東京から上越線で新潟方面へ、冬、旅行する
人は、清水トンネルあたりを境に、南と北の氣候がす
つかりちがつてゐるのでびつくりします。關東平野で
も、南の相模灣の岸や房總半島の沿岸などは、近く暖
流の流れる海に面してゐるので、いつそう暖かです。

るほどです。

前にも述べたやうに、關東平野は、臺地と川の沿岸
の低地とが入りまじつてゐますが、荒川を越えて利根
川の沿岸になると、だんだん低地が廣くなり、臺地は
きれぎれになります。低地は大部分が水田で、臺地に
は畠が續きます。關東平野が、わが國でいちばん多く
麥を産するものも、かうした廣い畠があるからであり、
またさつまいもの多くとれるのも、そのためです。

武藏野を西へ行くと、山のふもとに近づくにつれて
桑島が多くなり、見渡すかぎりそれが續きます。關東
平野の西部から北西部にかけての山麓地帯では、いた
るところ養蠶業が行なはれ、随つて製絲業・絹織物業
もまた盛んです。前橋・高崎・富岡・熊谷などは製絲
業の中心地であり、桐生・足利・伊勢崎・八王子など
は絹織物の産地です。

また關東平野の北東部と南西部には、たばこの栽培

しかし、山地を越して來る冬の北西風は、平野の方
へ強く吹きおろして來ます。濕氣を失つた空つ風が、
平野の北ほど強く吹きます。東京でも武藏野の土煙を
あげて吹いて來る風は、めづらしくありません。

冬は天氣がよく、夏は南東季節風が濕氣を運んで雨
の多い關東平野は、農業が盛んであり、交通の便利な
ことと相まつて、いろいろな産業が發達するのです。

東京とその附近 帝都である東京は、東京灣に注ぐ
荒川下流の低地から、武藏野の臺地の土にわたつてひ
ろがつてゐる町ですから、低地にある下町と、臺地に
ある山手とに大別されます。宮城の附近には、議事
堂や、官廳や、東京驛その他銀行會社などの大きな
建物が集つてゐます。

荒川の下流を隅田川といひ、その沿岸から東京灣に
沿ふ埋立地にかけては、大きな工場や倉庫の立ち並ん
だ工業地帯があります。この地帯は、さらに南へのび

て川崎・横濱に續き、京濱工業地帯をなしてゐます。

東京にはあらゆる學校があり、また大きな博物館や圖書館があり、わが國學問の中心地として、圖書の出版の盛んなこともわが國第一であります。

東京はもと江戸といひ、徳川氏の幕府があつて繁昌したところですから、そのころからすでに陸上の交通も發達し、主な街道が四方へ通じてゐました。今日では、東海道本線をはじめ、中央本線・東北本線・常磐線など、わが國の主な鐵道の起點となつてゐます。その上、郊外へ出る電車の便利がよく、隨つて附近の町々は、東京と切つても切れない關係をもつて、發達して行くのです。

横濱は、神戸・大阪とともにわが國の三大貿易港の一で、太平洋やインド洋を往來する大きな汽船も、自由に入出することが出来ます。東京に近く、その間の交通が便利ですから、いはば東京の港として利用され

たことが、この港の大きく發展するもとなつたのです。明治時代になるつひ前、外國貿易のために開港されるまでは、ほんのさびしい漁村でした。

東京と横濱との間にある川崎は、ちやうど京濱工業地帯の眞中にあつてゐるので、近年小さな町から、工業都市として急に發達したところでは、

多摩川の川口附近や東京灣の東岸では、淺瀬を利用してのりの養殖が盛んです。もとは東京の海岸でも行なはれ、のりは昔から東京の名産であります。東京から東の方、千葉附近にかけての東京灣岸も、交通が便利となるにつれて都市が發達してゐます。

三浦・房總の二半島は氣候がよく、特に冬暖かですから、休養保健のために東京から出かける人がたくさんあつて、そのために發達した町も少くありません。この二半島及び附近は、かうした氣候に恵まれてゐますから、野菜や草花が盛んに作られ、また、びはや梨

などの果物もできます。冬でも戶外に美しく咲いてゐる草花を見ることが出来ます。

三浦半島の東岸には横須賀があります。近くにある鎌倉は、三面に山をめぐらし、南に海をひかへたところで、この要害をえらんで、七百五十年の昔鎌倉幕府が開かれたのです。名高い神社や寺院が多く、いたるところ史蹟があつて、見るもの聞くものが歴史をしのばせます。

利根川 利根川は、關東平野を流れて太平洋に注ぐ大きな川です。長さでは信濃川におよびませんが、多くの支流を集めて廣い平野をゆつたりと流れてゐるこの川には、たしかに大河のおもむきがそなはつてゐます。

この川は、關東平野の北にそびえてゐる山地の奥深い谷に發して、平野の眞中をななめに横ざり、やがて東へ流れるのですが、その間、あちこちから注ぎこむ

たくさんの支流や、下流地方にある大小の湖沼は、いはば利根川の引きつれる一族とも見なすことが出来ます。

利根上流の谷々をさかのぼり、やがて山を越えるいくつもの峠道では、碓氷峠とか清水峠とか、昔から有名なものがあります。急な坂を登るのですから、そこに通じてゐる鐵道にはたくさんのトンネルがあり、中でも上越線の清水トンネルは、長いことにおいてわが國第一であります。また信越本線が碓氷峠を越えるところには、アプト式といつて線路に齒止めが仕組んであります。

利根上流の山地には、那須火山帯が通つてゐますから、淺間・榛名・赤城・男體・那須など、たくさんの火山があり、温泉が各地にわき出てゐます。中でも、伊香保・鹽原などはよく知られた温泉です。淺間山はたびたび爆發をするので、活火山として有名な山で

す。頂上から絶えず立ちのぼる煙は、遠くからでも見ることが出来ます。ふもとにある輕井澤は、土地の高い高原で、夏涼しく、暑さをしのぐのに適してゐます。

男體山を中心に、多くの火山の集つてゐる日光には、中禪寺湖や華嚴瀧などがあつて景色がよく、そのあたりは國立公園として世界に有名です。近くの足尾には大きな鑛山があり、銅の精鍊を第一に、金や銀も産出します。

利根川の上流は、本流や支流も、岩にくだけうづ巻く急流ですから、最もよく水力發電に利用され、その電氣は主に東京へ送られます。この川が平野へ出ると、急に水勢がゆるやかになり、廣い河原をつつて、田や畠の間をゆつくりと流れます。沿岸には村や町が多く、道路や鐵道が、岸に沿ひ川を横ぎつて四方に通じ、車馬の往來かにぎやかです。昔は川船が盛ん

に上下し、人や荷物を運び、川岸の所々に港が發達して、その水運は、もつぱら關東平野の交通上大切でありましたが、鐵道や自動車の便がよくなつた今日では、下流地方をのぞくほか、あまり利用されなくなりました。

下流へ行くにつれて、川幅は廣くなり水量は豊かになつて、霞浦その他の湖沼と水路が續き、大小の運河がまた沿岸の低地を網の目のやうにぬつて、そのへん一帯どこを見ても水ばかりになります。いたるところ船の利用されるこのあたりでは、船が車や馬の役をしてゐるわけです。

霞浦は平野にある大きな湖ですが、平野の中の大きな湖は、わが國にはごくまれで、霞浦は、いかにも利根川にふさはしい湖です。北に近く筑波山がそびえて、湖岸の景色に變化を與へてゐます。

利根川の川口にある銚子は、漁港として知られ、ま

た江戸川沿岸の野田とともに、醬油の製造がたいそう盛んであります。

四 東京から神戸まで

東京から神戸へ行く東海道本線は、わが國鐵道の幹線中でも特に多く利用され、いはば幹線の代表とも見られます。沿線はいたるところ産業が盛んで、大きな都市が發達し、人口もわが國でいちばん密度の高いところでは、東海道本線を走る汽車の窓から、移り行く景色を眺めて、その美しさを樂しむとともに、なほ産業・交通・都市などのやうすについても、いろいろ學ぶことが出来るのです。

富士と箱根 東海道本線によつて東京から神戸へ行く途中で、たれでもいちばん心を引かれるのは富士山でせう。富士山はするぶん遠くから見える山であり、見る場所によつてそれ／＼のおもむきがありますが、

駿河灣の沿岸では、すそ野から頂上までの全體のすがたを、近く仰ぎ見ることが出来ます。私たちは、富士山を見てたゞ美しい山だと感じるだけでなく、何ともいへない氣高さ、尊さをおぼえます。富士を靈峯とよぶのは、日本人のこの氣もちを最もよくあらはしてゐると思はれます。

富士に近い箱根も有名な火山で、ともに富士火山帯にあつてゐます。箱根には火山にともなふいろいろな地形が見られ、美しい景色に變化を與へてゐます。また行く先々に温泉があるし、史蹟もあつて、たづねる人が特に多いのです。箱根は昔の東海道の旅で、いちばんの難所とされたところで、そのけはしい山道と、蘆湖の岸にあつた關所とは、有名なものでした。昔から小田原と三島とが東西の登山口で、今では小田原から、東海道本線にれんらくする登山電車を通じてゐます。

箱根の山地は、南へのびて伊豆半島にはいつてゐますが、この半島にも各地に火山があり、また熱海・修善寺をはじめ、たくさん温泉があります。すべてこれらは、富士火山帯の通つてゐるところです。なほこの半島の東の海上に、煙を吐いてそびえてゐる大島の三原山をはじめ、伊豆七島の島山もこの火山帯にあたる火山で、それらは、時々爆發することがあります。富士火山帯はさらに南へのびて、父島・母島などのある小笠原群島へ續いてゐます。

伊豆七島・小笠原群島は、位置がずつと南にある上、暖流が流れてゐるので、たいさう暖かです。殊に、小笠原群島には熱帯の植物が茂り、さとうさび・バナナ・パイナップルなどを産します。

みかん山と茶島 伊豆半島の北部から駿河灣の沿岸には、いたるところにみかん山があります。山や岡の傾斜地を切り開いた段々島に、青々としたみかんの木

が茂りあつてゐます。冬の初めごろになると、色づいた鈴なりのみかんが、島を黄色に色どつて、いつそう美しく目にたちます。静岡縣は、西の和歌山縣とともに、わが國でいちばん多くみかんを産するところですが、また、駿河灣の岸から濱名湖附近にいたる間は、茶の栽培のたいそう盛んなところで、山のふもとの傾斜地や岡の上などは、どこもかしこも茶島です。特に大井川の下流あたりがその中心地で、廣い岡の上は、見渡すかぎり茶島が續き、きれいに刈りこんだ茶の木がさちんと並んでゐます。富士にまだ雪の白く残つてゐる春の茶摘時になると、どこの茶島もにぎやかです。そこで、製茶業はこのへん各地で行なはれ、静岡縣は、わが國の茶の産額の半分以上を出してゐます。静岡は製茶の中心地です。

茶やみかんの栽培の盛んな駿河灣の沿岸から、濱名湖附近にかけての地方、及びその西の名古屋との間に

は、東海道本線に沿うて、沼津・清水・静岡・濱松・豊橋・岡崎などのおもだつた都市があり、それぞれ附近の産業・交通の中心として發達しました。

濱名湖は景色がよく、魚類の養殖が盛んです。濱名湖から西へ豊橋・岡崎をすぎると、やがて行く手に濃尾平野が廣々と開けます。

濃尾平野と伊勢海 木曾川の下流から、知多半島附近にかけての廣い平野が濃尾平野で、三面は山地にかこまれ、南の方は伊勢海に開いてゐます。この平野は、木曾川の川口附近を越えて、伊勢海の西岸にある伊勢平野に續いてゐます。

濃尾平野とその附近は、古來交通上大切なところで、多くの街道がこゝに集つてゐます。東海道をはじめとして、まはりの山地からこの平野に流れくだる川々に沿うて通じる道や、伊勢平野を通る道などの組み合ふ十字路ともいふべき地方であり、その上、昔の都

京都に近かつたために、いつそう交通上大切なところとなつてゐたのです。

濃尾平野は、氣候がよく土地も肥えてゐるので、農業が發達し、米や野菜がたくさんできます。桑も廣く分布し、養蠶が盛んですから、まゆ・生絲を多く産出します。養鶏も早くから有名で、愛知縣は、わが國でもいちばん養鶏の盛んなところとなつてゐます。

この濃尾平野の中心が名古屋です。まはりに廣い平野をひかへ、南に深く入りこんだ海にのぞんでゐる名古屋は、土地のやうすから見ても、東京とよく似たところがあります。もちろん濃尾平野は、關東平野ほど大きくはありませんが、同じく本州にある主な平野であり、この平野が、名古屋といふ大きな都市を生んだといへるでせう。

名古屋がもと城下町として發達したところであることも、また東京と同じです。

昭和二十一年五月四日 翻刻印刷
昭和二十一年五月二十五日 翻刻發行
〔昭和二十一年五月四日文部省検査済〕

初等科地理上 第五編年用(第一分冊)
定價 金參拾(錢)

著作權所有 發行兼 文 部 省

東京都王子區堀船町一丁目八五七番地
翻刻發行 兼印刷者 東京書籍株式會社
代表者 井上源之丞

Approved by Ministry of Education
(Date May. 4, 1946)

東京都王子區堀船町一丁目八五七番地
印刷所 東京書籍株式會社

發行所 東京都王子區堀船町一丁目八五七番地
東京書籍株式會社

広島大学図書

0130449644

